

かわうちぶくる 川内袋遺跡発掘調査説明会資料

調査要綱	
遺 跡 名	川内袋遺跡
遺 跡 番 号	1968（山形県遺跡地図）
所 在 地	山形県鶴岡市大字五十川字川内袋
調査委託者	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調 査 原 因	日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設事業
調 査 面 積	6,500 m ²
現 地 調 査	平成19年5月8日～12月14日
遺 跡 種 別	集落跡・狩猟場
時 代	縄文時代
遺 構	竪穴住居・ ^{おとしあな} 陥 穴・貯蔵穴・炉跡・土坑・ピット
遺 物	縄文土器・石器・須恵器
調査担当者	調査課長 長橋 至 専門調査研究員 黒坂 雅人 専門調査研究員 齊藤 主税（調査主任） 調査研究員 今 正幸 庄司 隆志 調査員 阪 英子 渡辺 和行
調 査 協 力	東日本高速道路株式会社東北鶴岡工事事務所、鶴岡市教育委員会、庄内教育事務所



遺跡全景

1 調査の概要

川内袋遺跡は地元の五十川地区では以前から縄文土器や石器が出土する所として知られていました。30年以上前に中学生が縄文土器を採取したことが五十川中学校の文集でも紹介されています。この地域が日本海沿岸東北自動車道建設の予定地にかかることになり、山形県教育委員会が平成16年に表面踏査、平成17・18年度に試掘調査を行い、その結果、工事に先立って発掘調査を実地することとなりました。今年度、財団法人山形県埋蔵文化財センターが国土交通省から委託を受け6,500m²について発掘調査を実施しています。

発掘調査は5月8日から開始し、最初に重機を使用して表土除去を行い、人力で遺構検出作業、掘り下げ作業を行いました。その後、写真撮影、図面作成など記録作業を行っています。

調査は工事の工程に合わせて、A区東・A区西・B区・C区

2007年11月4日（日）
財団法人山形県埋蔵文化財センター



遺跡位置図（1：25,000）



A区東側全景

に4分割して行ってきており、A区東側はすでに調査を終え、工事が行われています。

2 立地と環境

川内袋遺跡はJR羽越本線五十川駅の東方400m、出羽山地から日本海に注ぐ五十川右岸の舌状に張り出す丘陵端部に立地します。遺跡は昭和50年代前半に行われた開発等（開墾、開田）により遺跡の主要部が壊されてしまいましたが、その時に多量の遺物が採取されました。その遺物のほとんどは五十川小学校に保管されています。

地目は、B・C区の所在する尾根上は現在山林ですが、以前は中学校の畑があり、よく石鏃が出たと言われた場所です。このあたりの標高は34mで、一方、A区の地目は水田で標高は18mほどです。



A区南西側遺物出土状況（北西より）

3 遺構と遺物

川内袋遺跡A区では縄文時代前期の竪穴住居跡4軒と土坑、柱穴、ピット、縄文時代後期と見られる土坑1基が見つっています。見つかった竪穴住居跡の1軒では床（土間）が3回作り変えられているものもあり、その住居の炉跡には縄文土器が埋められていました。他の住居跡では地面で直接火をたく^{じしょうろ}炬（地床炉）が見られました。

また、高台（B・C区）から崩れてきたと見られる多量の土砂と大小の礫群（石）が多数見つかっており、これらの遺構の周辺は遺物包含層が形成されるとともに、その上に作られた竪穴住居跡もありました。

B・C区では^{おとしあな}陥穴やフラスコ状土坑、炉跡、柱穴、ピット（小穴）が多数検出されました。また、土砂や土器、石器が捨てられている斜面があり、その斜面が埋まった後に、^{おとしあな}陥穴が掘り込まれている例も見つかりました。

出土した遺物は現在までに縄文土器、石器合わせて整理箱で350箱となり、その9割以上がA区の遺物包含層の中から見つっています。また、崩れてきた土砂の中からも大量に見つっており、その土器のほとんどが縄文時代前期の約5,500～5,000年前の深鉢型土器です。



B・C区全景（北東より）



貯蔵穴SK378土層の剥ぎ取り

土器は完全な形あるいは、完全に近い形で残っている物も多数ありました。

石器は^{せんとうき}尖頭器、^{いしさじ}石匙、^{いしべら}石篋、^{せきぞく}石鏃、^{ませいせきふ}磨製石斧、^{せきすい}石錘、^{すりいし}磨石、^{けつ}玦状耳飾り、などが出土しています。

この他わずかに2点だけですが^{すえき}須恵器の破片が出土しており、奈良時代～平安時代のもたと見られます。

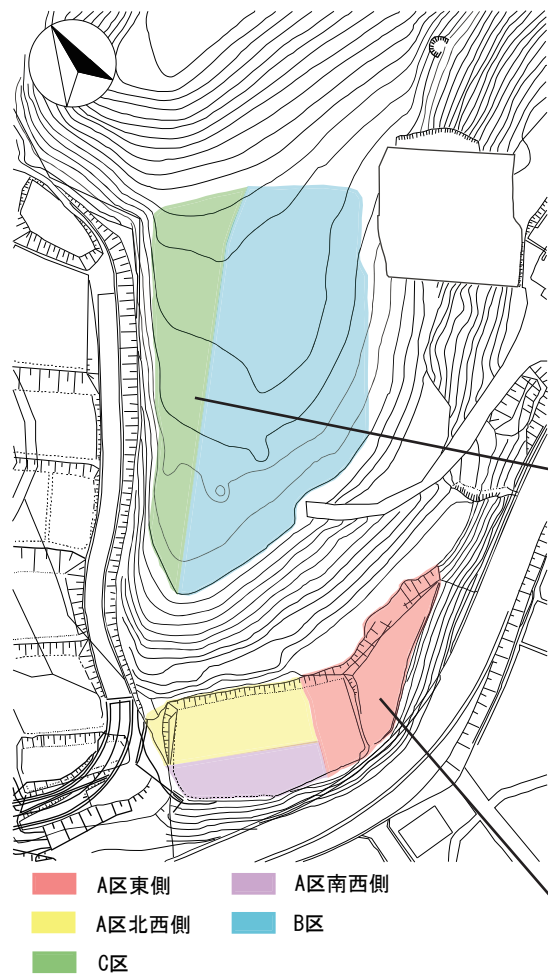
4 まとめ

川内袋遺跡発掘調査は、日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設に係る緊急発掘調査で、約6,500m²を調査しました。

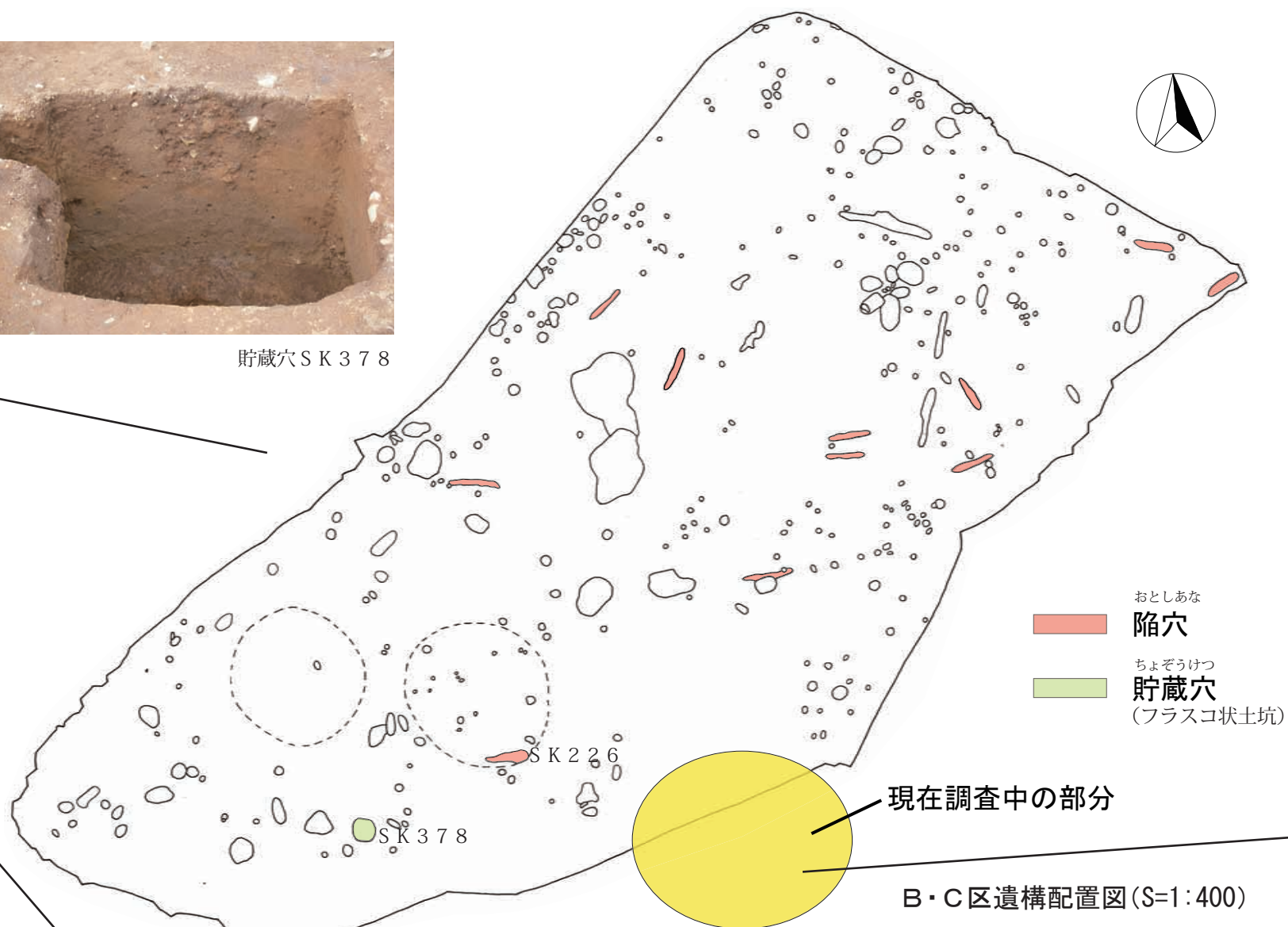
今回の調査では、A区で竪穴住居跡や大量の土器や石器が出土した遺物包含層が検出され、高台のB・C区からは^{おとしあな}陥穴群、フラスコ状土坑群が検出されました。

出土遺物は現在350箱ですが最終的には400箱を超えるものと推定しております。出土した遺物の量に比べ、発見された竪穴住居跡の数が少ないのは、高台の部分の遺構が削平されたこと、周囲に当時の村の広がりがあったこと（調査区西側の開田時に遺物が出土したとのことです）などが考えられます。

調査で得られた成果は今後の整理作業のなかで精査し検討を加え、この地域の歴史を語る報告書として刊行される予定です。



貯蔵穴SK 378



陥穴SK 226



貯蔵穴SK 435



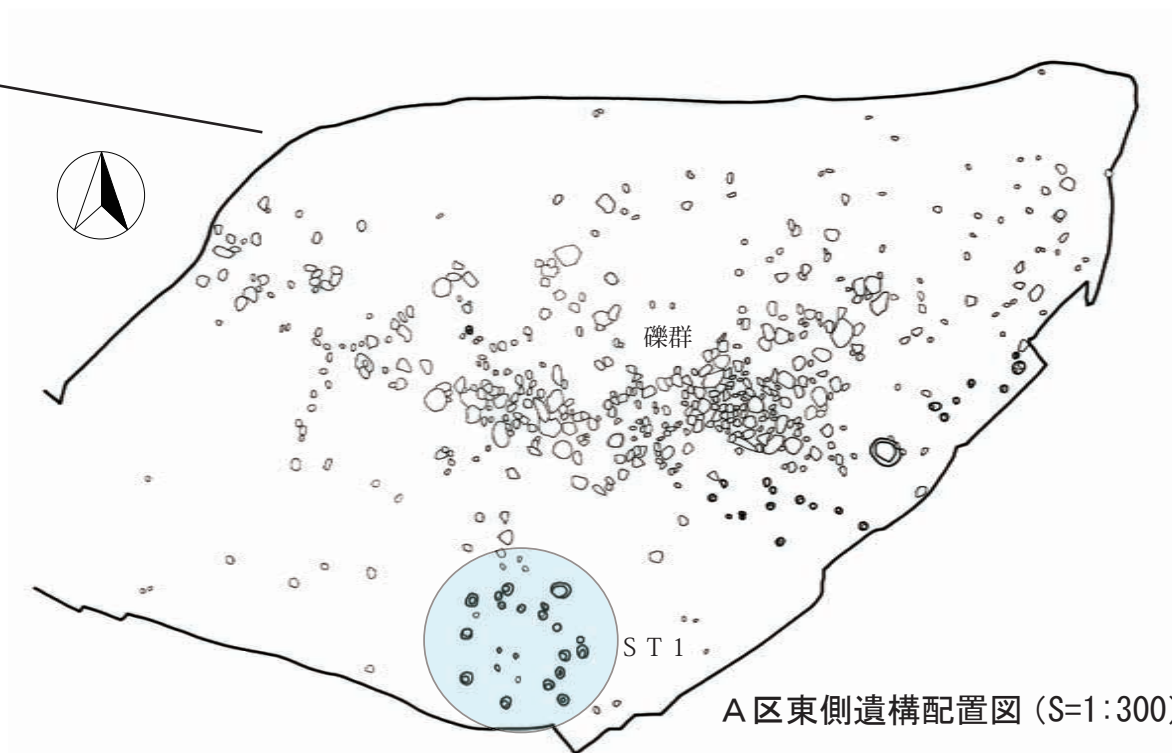
縄文時代前期の土器



A区東側遺物出土状況(南西より)



竪穴住居ST 1(南西より)



けつ
珠状耳飾り



いし
石匙